

各位

上場会社名 アドアーズ株式会社  
 代表者 代表取締役社長 中川 健男  
 (コード番号 4712)  
 問合せ先責任者 代表取締役専務兼管理本部長 八多川 昭一  
 (TEL 03-5623-1100)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,700	800	600	270	5.98
今回発表予想(B)	13,709	823	725	352	7.79
増減額(B-A)	9	23	125	82	
増減率(%)	0.1	2.9	20.8	30.4	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	12,747	708	630	348	—

## 修正の理由

## ＜第2四半期累計期間＞

主力のアミューズメント施設運営事業におきましては、業界全体として個人消費の冷え込み等から依然厳しい状況が続いているものの、既存店舗の市場競争力の強化を重視した、業界不況をチャンスと捉えた積極的なマーケットシェア獲得戦略を推進し、概ね計画通りの業績を確保致しました。

その上で、株式会社ネクストジャパンホールディングスとの資本業務提携のシナジー効果を発揮したプライズゲームの伸張、遊休スペースを有効活用したカラオケ業態などの新業態展開、さらには当社が最も重要視しております「サービス力(接客力+提案力)」の強化など、厳しい環境の中ではありますが将来の差別化を着実に構築しております。

さらには、第二の柱である施設設計・施工事業におきましても、当社過去最大規模となる大型物件の完工をはじめ、概ね計画どおりの実績をあげることができたことなどから、第2四半期累計期間の売上は期初予想を達成できる見通しとなりました。

また、利益面におきましては、徹底したコスト削減や投資抑制による借入金金利の負担減・機器の売却損の減少などから、期初予想を上回り、前年度と比較しても増益を達成できる見通しとなりました。

## ＜通期＞

第3四半期以降の経済環境は不透明感が拭い切れず、依然として厳しい経済環境ならびに個人消費の低迷が続くものと予想されます。期初の想定どおり、秋～冬にかけて、市場期待度の高い新マシンが数多く導入される見込みではありますが、売上高の動向によって大きく収益が変わるアミューズメント施設運営事業特有の収益構造や、こうした情勢を鑑み、通期の見通しは修正しないものと致します。

なおアミューズメント施設運営事業では、引き続き、新たな顧客層にも受け入れられる個店毎の強化策や新業態の研究を推進するほか、更なる「サービス力(接客力+提案力)」の強化に向けて、お客様への積極的な「アプローチ」を付加する人材教育にも着手するなど、徹底した将来の差別化にもつながる当社独自の基礎を築きながら、マーケットシェアの獲得を目指してまいります。

※上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、予想とは異なる可能性があります。なお当社の平成22年3月期の第2四半期決算短信(非連結)の開示は平成21年11月11日を予定しております。

以上